

参考資料 1

調査結果

東京都「児童・生徒の読書の状況に関する調査より

立川市「読書に関するアンケート調査（児童・生徒対象）」より

- ・ 1か月の平均読書冊数と未読者率
- ・ 読書に対する意識 <立川市> <東京都全体>
- ・ 学校図書館の利用 <利用の理由>
<利用状況>
- ・ 公共図書館の利用 <利用状況>
<利用しにくい理由>

読む本の入手方法

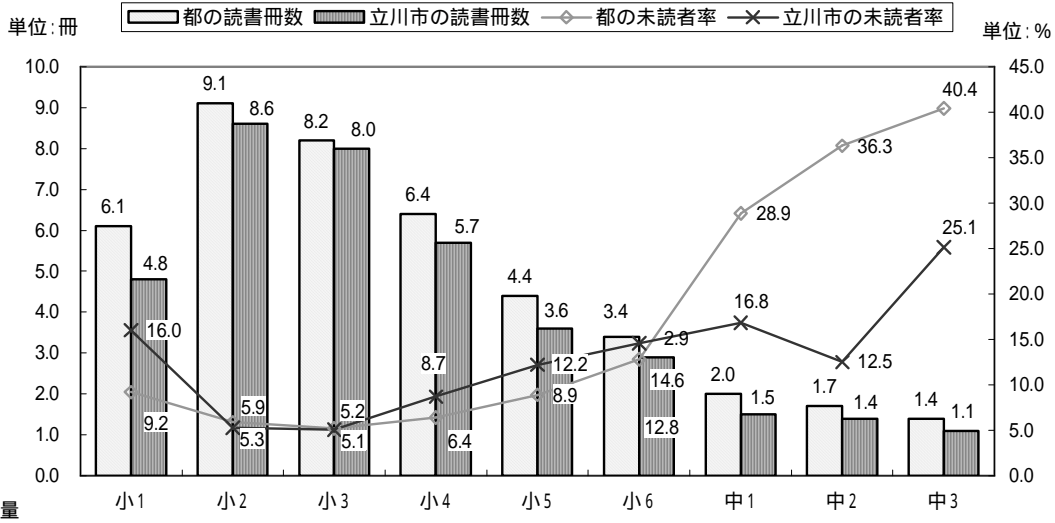
読書に対する意識 <男女比>

読み聞かせと読書

立川市の図書館・学校図書館

1か月間の平均読書冊数と未読者率

読書調査(都)

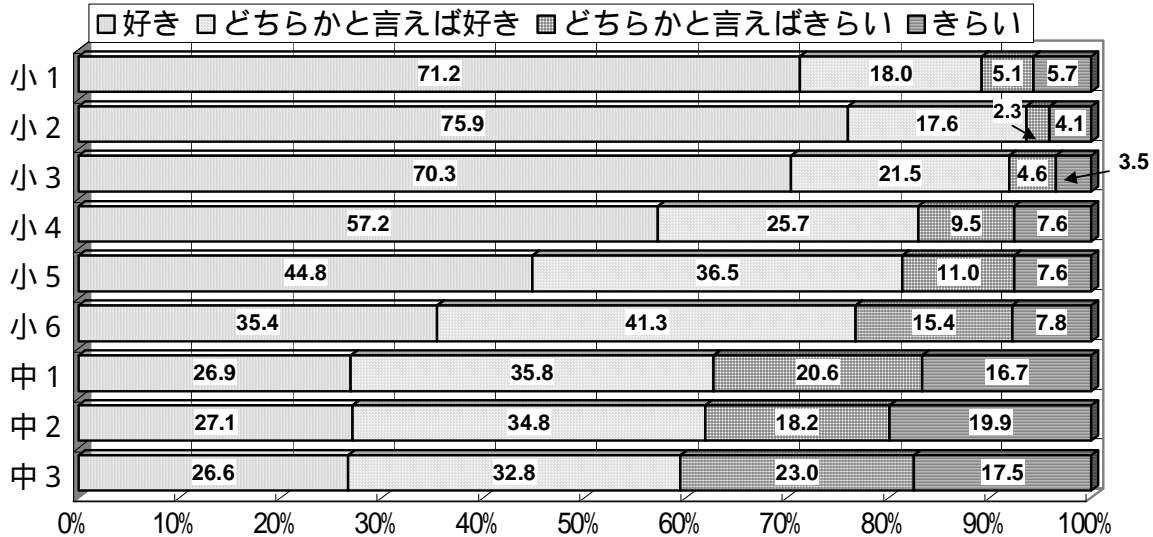


1か月間の平均読書冊数は、いずれも立川市は東京都全体の平均を下回っている。1冊も読まなかった未読者の比率は小学校2・3年生と中学生では逆に低く、都平均より本を読まない子が少ないとなっている。1冊も読まない子は少ない学年もあるが、読んでいる冊数は全ての学年で都の平均より少ないと言える。「子ども読書アンケート(市)」では中学2年生の未読率は17.1%となっており都の調査の数値12.5%と大きく異なる。調査時期のちがいが影響していると考えられるが、明確な理由は不明。

読書に対する意識(立川市)

読書調査(都)

本を読むのは好きですか？



読書に対する意識(東京都全体)

読書調査(都)

読書に対する意識
「読書調査(都)」では、「好き」「どちらかと言えば好き」を合わせた数値が、小学校2年生をピークに(中学3年で若干上がるものの)学年が上がるにつれ低くなっている。この調査での立川市の数値は小学2・3年生を除き都の平均より下回っている。本を読むのが好きかどうかは、何冊読んだかという読書量や図書館の利用などと密接な関わりを持つものだが、その部分で立川市の子どもたちは否定的な割合が高いと言える。

